

第 12 回情報委員会における主な意見

【情報システム基盤について】

○研究により得られたデータが整理されて学術情報になり、体系づけられて知識が蓄積される一連の流れを押さえた上で、情報基盤を整備することがデータ駆動型科学の実現のために重要である。

○コロナ禍において、既に様々な学問分野及び教育の現場が、SINET により支えられていることが明らかとなったことから、その重要性が非常に増していることを強調したい。

○研究データ基盤の管理及び運用について、後世においても参照できるよう、研究データの長期保存について考慮するべきである。

【研究の DX について】

○「研究のデジタルトランスフォーメーション (DX)」は、科学研究の中で具体的に何を指すのか、情報委員会の中でコンセンサスを取って、定義づけをするべき。

○コロナ禍である今こそ、AI・データ駆動型科学の実現、実装が非常に重要である。

○研究の遠隔化・スマート化については、単なる操作の自動化のみではなく、従来では見つけることのできなかつた新たな成果を創出できる可能性があるという点が重要。

○情報科学が各分野のデータ駆動型科学を牽引することで、既存の科学を融合し、新しい学術領域を作っていくことが重要である。

【データの収集・共有について】

○民間には非常に多くのデータが集まっており、これらを活用するため、産学連携等を含め、どのように収集してくるかについて考えるべき。その際、データガバナンスは重要な課題であり、国としてのポリシーを出す必要がある。

○データについては、共有するというスタティックな面だけではなく、収集して使っていくというダイナミックな面も重要である。

○データの収集に各国が目を向け始めている中で、我が国が何をしていくかということが非常に重要。

【その他】

○提言としてまとめたものを、一般の方々、ステークホルダに提示して、指針にしてもらう等のアウトリーチをしっかりと行うことが非常に重要。